



ぐんま集排だより



田代地区処理施設 (OD型)

処理施設を訪ねて

嬭恋村田代地区農業集落排水組合長 橋詰 重信

田代地区について教えてください。

田代地区は、嬭恋村の西部に位置し、北側を四阿山、南側を浅間山に囲まれ、西側は長野県真田町に接しており、中央を吾妻川が流れている標高一、一〇〇mから一、三〇〇mの高原地帯であります。

田代地区は、嬭恋村の中で一番人口の多い集落で、日本一のキャベツ産地である嬭恋村の中でも最大の産地であり、地域の各種行事、自治会、消防団、婦人会等もまとまりをもって活動しており、日常生活面からも一体となった集落形成をしている地域です。

事業への取り組みについて教えてください。

近年、農村社会においても生活水準の向上が図られ、また生活様式の変化等により生活排水が農業用水に流入し水質汚濁を進行させており、水質保全、生活環境の改善が急務となったことから、田代地区は農業集落排水事業として平成4年度に採択を受け、計画戸数四五五戸、計画人口二、七九〇人、日最大汚水量九二二m³で計画し、総事業費18億円をもって整備しました。処理方式は、オキシデーシオンディッチ法を採用し、処理施設の外観は環境にやさしいものとなりました。

今後の課題等についてお聞かせ下さい。

田代地区は、平成7年度に供用開始して現在90%の供用率となっております。また、日常維持管理として年4回の処理場内の花壇づくり、草刈・清掃作業を行っており、これからも適切な維持管理を行い、地域の大切な施設として利用していきたいと考えております。

今後は、現在尿処理場へ処分している汚泥について家庭生ゴミと一緒に乾燥し、肥料として活用できるように役場担当課と検討しており、早期に事業化出来れば素晴らしいと思っております。



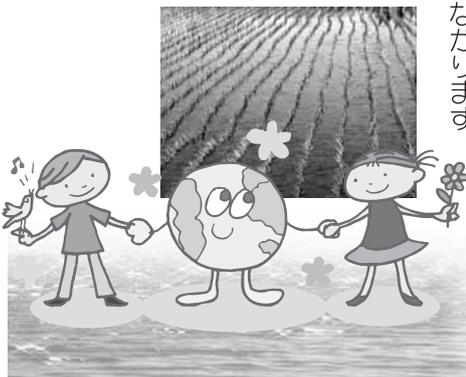
田代地区全景

農業集落排水事業と資源の有効活用について

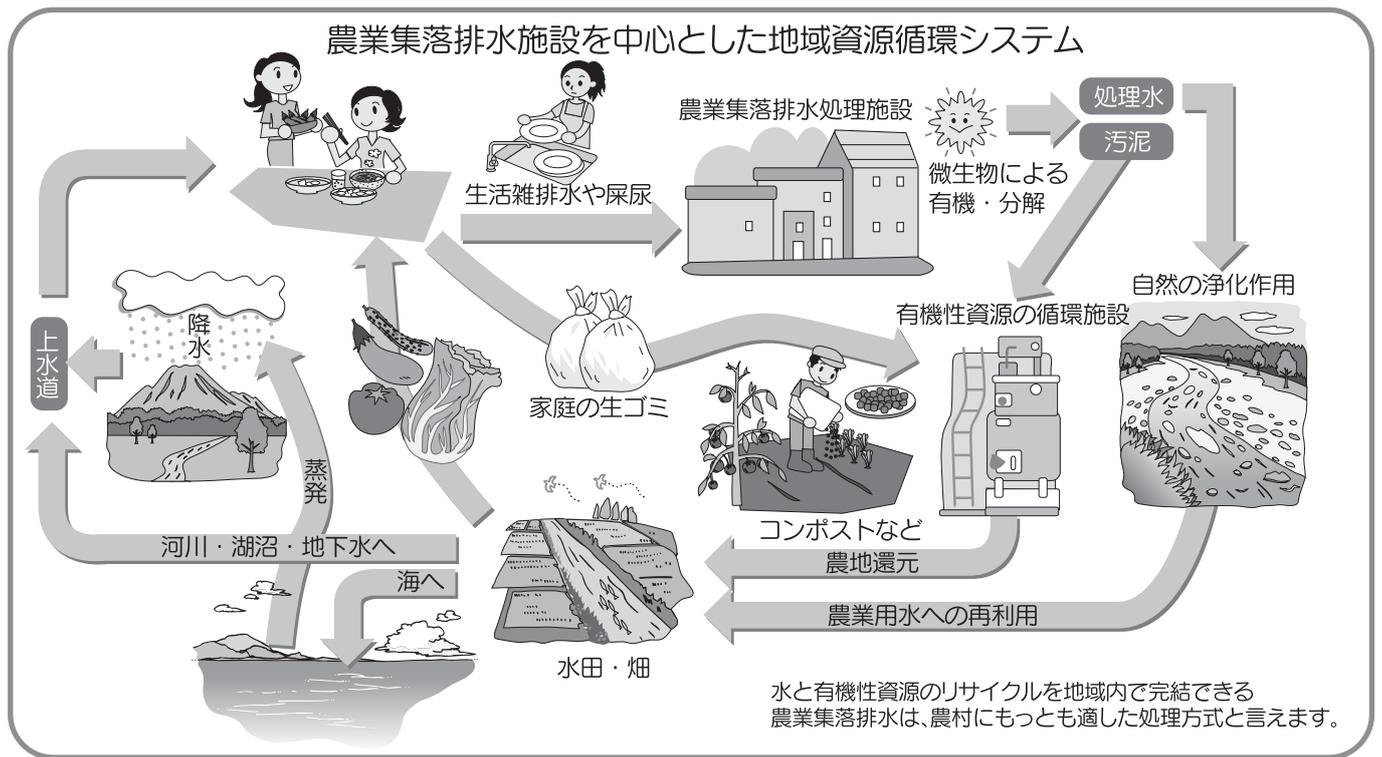
農業集落排水事業は、農村地域の家庭から排出される生活雑排水やし尿等を処理して農業用水の水質保全や生活環境の改善等を目的とした事業で、群馬県では昭和50年度から事業に取り組み、現在までに104地区で着手し79地区が完了しており、10万9千人の方が利用出来るようになっております。これは、県が平成27年度を目標年次とした汚水処理計画の長期計画における集落排水処理施設普及人口25万5千人の約43%の進捗になります。

近年では、限りある資源の節約や環境に与える負荷の軽減等が求められており、生物由来の有機質資源（バイオマス）の活用が注目されています。現在、農業集落排水処理施設から排出される汚泥の一部は、乾燥汚泥を有機質肥料として農地還元が行われていますが、大部分は焼却処分をしており維持管理費の増大の原因となっています。維持管

理費の低減を図るためには、農地還元の推進が必要ですが、地元農家の受け入れが進まない状況にあり、このことから、発酵堆肥とし肥料効果を高め、商品化（コンポスト）等を行い、農地還元することが、維持管理費の軽減や資源循環型社会の構築につながるものであり、今後着手する地区は、この趣旨に添った資源循環促進計画を樹立する事になっていきます。私たち一人一人が、地球環境について考え、資源の循環型社会の構築を図る意識を持つことが維持管理費の軽減や安全・安心な食料供給へとつながります。



農業集落排水施設を中心とした地域資源循環システム



群馬県農業集落排水事業連絡協議会 役員紹介



監事/ 原 榮俊
(館林市協議会代表)
《新任》



監事/ 天竺 安治
(前橋市協議会代表)
《新任》



副会長/ 高山 仁一
(富士見村協議会代表)
《前監事》



副会長/ 森川 忠俊
(高崎市協議会代表)
《再選》



副会長/ 芝崎 完司
(沼田市協議会代表)
《再選》



会長/ 金井 郁治
(子持村協議会代表)
《前副会長》

平成15年6月の総会において役員が選任されました。(任期2年)

事業の大切さを次の世代に引き継いでほしい
中之条町 酒井 智二

四万川の清流が深く渓谷を刻み、やがて暮坂峠に源を発する下沢渡川と合流して山田川と名づけられる辺り、その段丘面に中之条町折田・山田地区が広がっています。また、この二つの地区と堺を接して新興住宅地四の二区があります。六年前、これらの三地区が合体して「折田・山田地区農業集落排水事業推進委員会」を結成し、町当局と協力しつつ計画を遂行し、平成15年の一月より供用開始となりました。

九月の『下水デー』には、処理場を一般公開し地元の利用者や関心をもつ多くの町民で賑わいました。私たちが日頃使い捨てにしてしまっている「水」の問題について、生活排水やし尿の処理という生活の末端から皆で考えていく、子供からお年寄りまで参加し、環境保護の問題を自分たちの生活と結びつけて、足元から見直していく一つのきっかけになったと思います。確かに目を背けたくなる汚水が、処理施設の中で次第に純化されていく姿は感動的であり、子供たちには驚きであつたようです。一度汚れた自然を再生させるには並大抵のことは

ありませんが、私たちの努力いかんではある程度可能であるといく希望も芽生えたと思えます。この辺りの自然環境は、水清く、空気は澄み、山紫水明の地といわれています。農業活動も非常に盛んです。そうしたすばらしい自然の恵みの中で暮らしているだけに一層、生活の基本にある「水」の問題について皆で考え、次の世代にこの事業の大切な役割をしっかりと引き継いでいきたいものと思えます。

美しい自然をつつまでも
孺恋村田代 竹淵 珠美

私は、3年前に千葉県船橋市から嫁いできました。孺恋村は、大自然に囲まれた緑豊かで澄みきった高原というイメージの反面、いざ生活するとするとトイレをはじめとした排水処理がとても気がかりでした。暮らし始めてみて私の心配は無用なものだった事がわかりました。農業集落排水事業が実施され平成7年の供用開始直後に我が家も接続していただきました。それまでも浄化槽は使用していましたが、雑排水は側溝へ流していただけています。面倒な浄化槽管理もなくなり、側溝もきれいになったと家族で喜んでいました。

利用者の声

昨年、村で実施した処理施設の見学会に参加した時、処理された水を見せてもらうと、とても透き通っていておどろきました。これならマンホールの蓋にもデザインされている孺恋村の美しい自然を守っていけると確信しました。

農村での生活も周辺環境こそ違え、家の中に入れば都心となら変わりない近代的な生活を送っています。農業集落排水が出来る前、集落内の河川はかなり汚れていたと聞きました。完成した現在では澄みきった清流が戻りつつあります。私の住む田代地区は利根川流域吾妻川の最上流に位置していますが、この水を実家で暮らす両親も飲むのだと思うと、施設を大切に使い後世まで豊かな自然を残していくのが私たちの使命だと思いました。

快適生活の実現
孺恋村 松本 洋子

私が小さい頃は、水道施設もなく、家の敷地脇の湧水を飲料水として利用し、生活していました。周辺には、セリ等生えた小川がいたるところにあり自然豊かな昔が懐かしく思い出されます。その後物が豊富になり、生活が便利になるに従い、小川は生活排水で汚れ、清流といわれる小川は家の周辺では見る事ができなくなりました。また、最近までそんな生活があたり前だと思っていました。

そんな中で平成7年に私たちの地域において農業集落排水が整備されました。私の家でも最初は使用料や負担金が心配となり、繋ぎごみを躊躇していました。しばらくして、折角の施設でもありつなぎ込みを行ってみると、維持費も心配したほどでもなく、嫌な臭いもなく、浄化槽の維持管理というわずらわしさからも解放され、快適生活が実現し喜んでいるところです。

現在では、地域の9割近い家庭で集落排水へのつなぎ込みがされているのですが、それに伴い、周辺に昔の清流が戻ってきており大変喜んでるところです。私たち山村に生活をしている者にとって、生活の不便なことが数多くありますが、豊かな自然の潤いを受けて、自然と仲良く生活することが何よりの喜びであり、地域の自然と共生しながらの生活を楽しくしていきたいと思っています。

今後は、地域が資源循環型社会を形成することが不可欠であり、そんな地域づくりに少しでも役立つような活動が出来たらと考えています。行政もそんな地域社会が実現できるように取り組んでほしいと思います。

平成14年度
事業報告
平成14年4月
～平成15年3月

- 平成14年 4月・監事会及び監査
・役員及び代表幹事合同会議
5月・役員会及び代表幹事会
6月・第12回通常総会並びに研修会（前橋市内）
6～10月・農業集落排水に関する絵画コンクールの実施
9月・生活関係改良普及員及び農業集落排水事業担当者研修会（東京都）
10月・農業集落排水に関する絵画コンクール表彰式（群馬県庁昭和庁舎 正庁の間）
11月・現地研修会（山梨県豊富村「とよとみグリーンセンター」）
12月・機関誌「ぐんま集排だより」（7号）38、500部発行
平成15年 2月・全国農業集落排水事業推進協議会第13回通常総会（東京都）

絵画コンクール作品紹介

絵画コンクールについて

農村地域の環境保全と農業集落排水事業の啓発・普及を目的に、21世紀を担う子供達の視点から環境へのメッセージとして、絵画コンクールを開催したところ、13市町村19小学校から255作品もの応募がありました。

審査については、専門知識者による事前審査後、本協会役員、代表幹事、群馬県、土地改良連合会の関係者が審査し、最優秀賞(群馬県知事賞)、連合会長賞、協議会長賞と優秀賞6作品、佳作10作品を決定しました。



最優秀賞
(群馬県知事賞)
水と自然とふれ合おう!



伊勢崎市立
三郷小学校
4年生
服部 奈々江さん

テーマ 自然ときれいな川の水が大好きなので、緑をいっぱい使い、水はちょっとこぼった感じを描いた。本物の自然と本物の川の水みたいにかげも描いてみた。



協議会長賞

田植え



中之条町立
第一小学校
4年生
西澤 有生さん

テーマ 山の中の田植えの様子をかきました。山の中なので水を次から次へと田んぼへ回し大切に使う様子をかきました。



連合会長賞

古代米を植えよ



前橋市立
大室小学校
5年生
内藤 友希さん

テーマ 学校の授業で古代米の種をまいて苗を育てて5年生全員で植えました。楽しかったので思い出して描きました。



平成15年度農業集落排水に関する絵画コンクール表彰式開催

平成15年度農業集落排水に関する絵画コンクール表彰式が、平成15年10月18日(土)、群馬県庁昭和庁舎の正庁の間で開催されました。

表彰式には、受賞者の父兄や先生、行政の関係者をはじめ多数の来賓を迎え、一般の人も含め約50名が出席し盛大に開催されました。

当日、県庁では第10回収穫感謝祭が行われ「くんまの農業農村整備」のコーナーに各賞を受賞した作品が展示されました。

家庭での心かけ

農業集落排水処理施設は自然ときれいな水、快適な生活環境をつくるみんなの財産です。大切に使いましょう。また、家庭でのちょっとした心かけで、きれいな川を守る手助けができます。

- ◆ 洗剤を利用するときは無リン洗剤を使う
- ◆ 台所の調理くず・てんぷら油等は流さないようにする
- ◆ 水洗トイレには溶ける紙を使用する
- ◆ 風呂場や洗面所の排水口に髪の毛、糸くず等を流さない

